



大方あかつき館報

第8号
2002年12月発行

あかつき

『上林曉生誕百周年』を振り返って

野並 浩（上林曉生誕一〇〇周年記念事業実行委員長）

表記の記念大会を終えて、早いもので二か月以上が過ぎました。

昨年の四月二十五日。大方あかつき館に準備委員、上林曉文学館協議会委員ら十名が集い、「上林曉生誕百周年」記念事業実行委員会を結成。スタートしたことでした。

その後、五回の委員会を開き、計画を練り、検討を加え、協議を重ねてまいりました。

そして、生誕百周年記念大会に向けての事前イベントとして、次の諸事業を開催しました。

- ◇記念企画展（期間、平成十四年八月十三日（火）から十月三十日（木）まで）
 - ◇記念色紙展（期間、平成十四年八月十三日（火）から十月十三日（日）まで）
 - ◇第七回上林曉忌俳句大会（日時、平成十四年八月二十五日（日））
 - ◇上林曉文学賞募集（募集期間、平成十四年四月一日から七月三十一日まで）
- 応募総数五百二十一編。その中には、オーストラリアからの一編も含まれています。

次に、「記念大会」当日を少し振り返ってみます。

◎上林曉生誕百周年記念大会

●日時 平成十四年十月六日（日）午後一時

●場所 大方あかつき館

●記念式典（主催者挨拶 大方町長 金子繁昌氏）

（来賓祝辞 壺井栄文学館長 佐々木正夫氏）

●録音図書寄贈式（録音図書寄贈 上林曉文学館へ）

感謝状贈呈「高知点字図書館朗読奉仕者友の会へ」

「春の坂」上林曉作品朗読 松田光代さん

●謝辞（上林曉長男 徳広育夫氏）

●文学賞表彰式（審査員 作家 三浦哲郎氏）

●記念講演 中野良子さん（女優 WILEY 国際文化交流文化センター代表）

演題「新しい時代の中で志を築く」

（午前中は映画「あやに愛しき」を上映）

式典に先立ち、大方あかつき館のロビーの一角には「茶室」が設けられ、お茶の会（代表、山崎幸嬢さん）の会員の皆さんによる野点が開かれました。抹茶と山茶花の花びらを模した和菓子に、来賓の方は舌鼓を打っていました。

記念講演では、新しい時代に生きる前向きな姿勢の大切さを学びながら、中野良子さんの爽やかな弁舌に聴き入ったことでした。

ところで、生誕百周年記念大会を前にして、私は朝日新聞の声欄に、大方町の誇りである作家・上林曉が昭和文壇に残された足跡を、広く知ってもらうために一文にまとめ投稿しました。早速、読者の方から問い合わせや励ましの電話やお手紙を頂きました。その中からお手紙を紹介します。

「前略後免下さい。」

今朝の朝日新聞声欄（九月十日付）に、『限りない共感、上林曉百周年』と題して、大方町主催で生誕百周年の行事があると出ていました。私は上林曉先生の短編（私小説）が大好きで、子供を育てながらよく図書館で借りたり、買って読みました。

『聖ヨハネ病院にて』や『小便小僧』『薔薇盗人』等、みんな人間として、優しく、暖かく最後はいつも涙が頬をつたいました。『小便小僧』は、子供に読んでやりながら、先に私が泣いてしまいい最後まで読めなかった思い出もあります。四十年余の昔を思い出して、上林曉先生の名を見て、思わずペンをとりました。

奥様が御病氣の時、子供さん二人を連れて実家へ帰られた時に、お父上が出てこられて『もったか』（戻ったか）といわれたところで熱いものがこみ上げて来たのを覚えてます。たった一言の、この言葉は、万感の思いであろうと今もはつきりおぼえております。

どんな文学館が建っているのか。いつの日か、尋ねてみたいと思いますが、遠くて、高齢になり無理かなと思います。

『上林曉全集』や『極楽寺門前』は、本棚に大切にしております。

どうか、記念行事が盛大であります事を祈ります。まとまりのない事ばかり書きました。

妹様（睦子様）の兄上を助けられた年月も尊いと思います。

乱筆にて 失礼いたします。

九月十日 かしこ（原文のまま）

兵庫県にお住いの七十二歳になる女性の方からでした。上林曉に寄せる真向きの熱い思いが身に染みしてくるようです。

記念大会には、町内外から多数の方に参加して頂きました。文学一筋。初心を貫き通した上林曉の偉業を偲ぶことができたのではないのでしょうか。これを機に、更に「上林文学」に込められた清冽な詩情・温かいヒューマニズムを語り継ぎ、顕彰していきたいと願っています。

最後になりましたが、「上林曉生誕百周年」の記念事業に携わってくださった皆さん。ご協力ありがとうございました。厚くお礼申し上げます。

記念式典に参加して

「志乃さんですね」

佐々木正夫（作家・壺井栄文学館長）

畏友・門脇照男さんといっしょにJRの特急列車で出かけた。大方町まで長い車中なのだが、わたしたちの師・上林暁の話をしていると、もう「土佐入野」だった。会場に着くと、わたしが講師をしているNHK高松と四国新聞文章教室の受講生が八人、迎えてくれた。高松を朝四時半、車をスタートさせて駆けつけた、という。うれしいことだ。式典では三浦哲郎先生のお話が聴けなかったは残念だったが、夜の懇親会でいっしょで、楽しかった。

「志乃さんですね」——先生の隣でいられた和服の三浦夫人に、小説「忍ぶ川」の主人公のお名前を言ってしまったが、「はい」と笑顔で応えられ、ごいっしょに写真まで撮らせていただいた。

中村市で一泊。翌日、門脇さんは上林さんの妹・八千代さんのお見舞いに、わたしは幸徳秋水の墓を訪ねた。

大方町、そして上林暁顕彰会のスタッフにお礼申し上げたい。すばらしい生誕百周年の記念行事だった。

「再会のよろこび」

門脇照男（作家）

お墓もあり文学館もあるこのふるさと大方町へ上林さんが帰ってきた亡くなって二十三年

四十年ぶりの帰郷であった生誕百周年記念式典の十月六日再会をよろこぶ人々の静かな感動の渦

三浦哲郎先生ご夫妻もいた上林暁文学賞受賞の方々の晴れやかな顔があった

おだやかな秋陽のなか中学三年生の上林さんが

一人入野の浜に立ち

野望を胸に潮騒の音を聞いているあ、よろこびのこの日上林文学の光芒よ

永遠なれ



三浦哲郎さんご夫婦



「記念講演」中野良子さん

上林暁文学賞

応募総数・五百三十一篇
審査員・三浦哲郎

【最優秀賞】「母の山茶花」木村孝義（広島県神辺町）

【優秀賞】「時計森尻 実（群馬県太田市）

【優秀賞】「夏泊まで」吉谷省三（奈良県大和高田市）

【奨励賞】「泥濘——冬の日の森鷗外」牧子嘉丸（東京都西東京市）

【奨励賞】「灯台へ行く」石井利秋（千葉県佐倉市）

【佳作】「南瓜の花」岡田治郎（埼玉県朝霞市）

● 寸評

三浦 哲郎

なによりもまず、応募篇数の多さに驚かされました。全国から五百数十篇の応募があったということは、文芸の不振がささやかれる昨今ではまことに驚くべき現象です。これはまちがいない、大勢の文学を愛する人その胸底に眠っていた上林文学への共感が、大方あかつき館のよびかけで一斉にめざめた結果ではないかと思われまふ。

私は、このなかから最も優れた作品として木村孝義さんの「母の山茶花」を選びました。ここには、体に障害のある息子を抱え、生涯の大半を紺紺の機織に捧げた老母の辛苦に満ちた歳月が嫌味なく語られていて、読む者の胸を打つのです。（以下省略）



「春の坂」を朗読する高知朗読奉仕者友の会々長 松田光代さん

● 受賞者からのメッセージ

『受賞雑感』 木村 孝義

ある公募雑誌で上林暁文学賞の募集を知り、この賞は獲りたいと思った。上林暁、井伏鱒二、三浦哲郎の延長線上に不遜にも私の姿を置き、身の震えを覚えたのだった。

しかし、この齢にして夢が現実になることを知ろうとは——だがしかし、夢は叶えられたのである。眼を通してもらえるだけでも、という願いを越えて、最優秀に選んでいただいた敬愛する三浦先生への感謝を禁じえない。

原稿投函以降、いずれかの賞に掛かるかもしれないという自惚れたな感触はあったものの、まさに晴天の霹靂であった。生後初めて雲の上を歩く気分を味わったのである。

受賞は、文筆活動への大きな励みになるだろうし、その重みは、上林暁顕彰への参加を自覚させるものとなった。

同時に、表彰式当日の短い時間ではあったが、大方町の方々の心洗われる温かい人情に接し、文学の根幹をなす人間の素晴らしさを思い知らされ、二重の感動に浸されたのである。



『人を生かす言葉』

森尻 実

表彰式に出席できず、残念に感じていた私は、主催者の方に電話で三浦先生の選評を聞かせていただきました。電話を切った後、私は家の中を歩き回り、いつのまにか嗚咽の声を漏らしていました。自分の泣き声を聞いたのは何十年ぶりのことだったかも知れません。私の創作について、先生がほんの少し可能性を認めて下さった言葉が、それほど深く私の心にしみ入ったのでした。浅薄、醜悪な言葉が氾濫する現代社会ですが、上林暁の命のこもった作品の力、体調を崩されていたにもかかわらず選考して下さった三浦先生と主催者の方々のご努力は、五百三十一人という多数の応募者（実際に応募できなかった人を含めればその数倍）が、真剣に言葉と向かい合う機会を提供して下さいました。少なくとも私は、生き続け、真摯に創作に取り組み勇氣を与えられました。優秀賞の名に恥じないよう今後も努力していく所存です。

『四万十川の霧』

吉谷 省三

土佐を訪れたのは初めてだった。中村駅を出て半時間も歩くと、堤から「赤錆剥げし」と上林暁が詠んだ鉄橋を望むことができた。川には翠色の水が豊かに流れており、作品の中で馬が放牧されていた川原では人びとがサッカーに興じていた。

翌日、早起きをして再び堤を歩いた。川面からは濃い霧が立ちのぼり、水滴の粒子が額を濡らした。「野猿注意」の看板のある小道を為松城跡まで登ると、樹林の間に上林の文学碑がひっそりと在った。哀しみを、ほのかな明るさに昇華して書き続けたひとに相應しい清楚なものだった。丘からおりる頃、霧はすっかり晴れていた。

受賞式の直前、三浦哲郎さんに著書にサインをいただいた。他でもない上林暁の記念の文学賞だからこそ、三浦さんは審査員を引き受けられたのだらう。朝に見た霧の四万十川の風景を、私は想い浮かべていた。霧の朝の光のように、すべてをやわらかく包み込んでゆくほのかさを想っていた。

『上林先生の故郷に抱かれて』

牧子 嘉丸

私は森鷗外が好きで、その日記も時折読んでいました。大正五年の師走に、夏目漱石の葬儀に参列したという記述があり、これを小説にできないかと私の想像がふくらみました。が、発表する場がありません。そのときまたまた今回の公募を知り、上林暁の名が冠した賞なら、あるいはこうした地味な作品でも受け入れてくれるのではと思ったのです。

九月末にあかつき館から入賞の連絡が入った時のうれしさはひとしおでした。受賞式では館や町の皆様から温かく迎えて頂き、また町長さんからねぎらいの言葉をうけ、改めて受賞の喜びをかみしめました。五百三十一編もの応募があったこと、そこには上林文学の根強い人気があること等、選者の三浦先生のお言葉通りですが、その中から選ばれたことは誠に光栄なことです。前日に四万十川の清流を眺めながら、上林先生の故郷に抱かれていた幸せを感じました。こういう機会を頂いた皆様に深く御礼申しあげると同時に、大方あかつき館のご発展を心より祈念致しております。

『生涯の思い出』

石井 利秋

私は学校を卒業したあと、中学校の教師をやりながらずっと文学に対する憧れを持ち続けてきました。そうはいくものの実際には同人雑誌に小説を発表するだけで、世間的には特別これといった作品を生み出すことができないまま、いつの間にか定年を迎えさらに六年がたつてしまいました。そんなとき偶然上林暁という大作家の名を冠した文学賞のことを知り、しかも審査員は私の尊敬してやまない三浦哲郎先生ということもあって、思い切つて応募することにしました。それが思いがけなくといいますか、実に幸運なことに奨励賞というこの上ない喜びとなって返ってきました。受賞式とその前後にいただいた暖かくも行き届いた当局関係者のみなさまのご配慮は、あの美しい豊かな自然とともに私にとって生涯忘れることのできない土地になりました。

第七回上林暁忌俳句大会

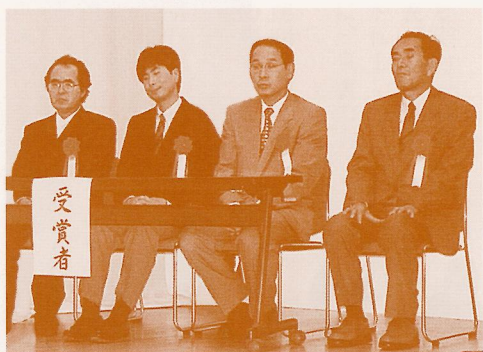
八月二十五日 ふるさと総合センター

講師・八木 健さん

- | | | |
|-------|--|--------|
| 【暁大賞】 | 「放牛の尿たうたうと雲の峯」 | 山脇 湧水 |
| 【暁賞】 | 「暁忌われもまことを書き継がむ」 | 浜田 金洋 |
| 【暁賞】 | 「いま過ぎた秋蝶に影があつたかしら」 | 宮川 昭男 |
| 【暁賞】 | 「汗をかきはじめし鼻のあたまかな」 | 亀井 雄子男 |
| 【暁賞】 | 「暁の落款歪む書を曝す」 | 橋本 錦浦 |
| 【暁賞】 | 「暁のふるさとつくつくぼうしかな」 | 柴岡 文子 |
| 【入賞】 | 「ブロンズの横顔がすき暁忌」 | 酒井 公順 |
| | 西沢けい子、池和子、中川あき江、山本三村、小野みやえ、秋田光繁、高橋節美、中村時雄、中平泰作、太田花酔、小野桶底、中村隆美、吉崎愚人 | |



最優秀賞 木村孝義さん



受賞者 左から 木村孝義さん、吉谷省三さん、牧子嘉丸さん、石井利秋さん





大方町立図書館

感想画コンクール

- 募 集 12月10日（火）～1月15日（水）
- 表 彰 式 1月26日（日）
- 入選作品展示 1月18日（土）～2月8日（土）

本を読んで心に残ったことなど“絵、にしてみませんか。
詳しいことは図書館まで。

とっても日曜日

- 第1日曜日 絵本を楽しむ会（大方あかつき館／2階和室）
- 第2日曜日 絵本を楽しむ会（大方あかつき館／2階和室）
- 第3日曜日 絵本を楽しむ会（大方あかつき館／2階和室）
- 第4日曜日 ビデオ上映会（大方あかつき館／レクチャーホール）
- 第5日曜日 絵本を楽しむ会（大方あかつき館／2階和室）

毎週日曜日は、ボランティアの方による絵本の読み聞かせやビデオの
上映などを行っています。日曜日は、図書館で楽しみませんか。

生涯学習

- 成人式 1月3日（金） ふるさと総合センター
- 新春かきぞめ大会（対象／小中学生）1月6日（月）
- わんぱくスキー教室（対象／小学校6年生）1月11日（土）12日（日）



ワールドクッキング



自然観察

生涯スポーツ

- 1月 ● 市町村対抗駅伝大会
- 2月 ● 大方町民マラソン大会
- あしずり駅伝大会
- 3月 ● 大方町民駅伝大会兼四国の道駅伝大会
- ジュニアバスケットボール大会
- バードランド周回駅伝大会